

## 平成29年度ひまわりパーク上牟田事業報告

平成29年度は、昨年から引き継いだ生活介護・就労継続支援事業B型・就労継続支援事業A型を実施しました。動物園の入札に外れ就労継続支援事業A型は、新たに3名の従業員を受け入れ、内勤を含め12名体制でスタートしました。従業員の異動はなかったので、当初の戸惑いはあるものの昨年と違いスムーズなスタートになりました。

利用者総数はスタート時点で32名、年度途中の退所が1名あり、3月末で在籍は31名となっております。

就労継続支援事業A型を取り巻く環境が年々厳しくなり、百道浜・愛宕浜の海岸清掃作業と博多区の受託清掃作業を継続できるように、事務局と連携しながら動いてきました。次年度も継続できるようになりましたが、金額は下がっています。次年度も継続に向けた動きを進めていきますが、就労継続支援事業A型の今後に関しての早急な対応が必要です。

就労継続支援事業B型の簡易作業は新規に箱詰めの仕事が年度末に飛び込んできました。実際に利用者と一緒に、工賃の安さを感じ発注先と工賃交渉を行いました。結果として、4円で始まった工賃が最低で10円になりました。内容によっては30円まで上げることが出来ました。

結婚式用ナフキンの埃取りは確実に定着しました。

ホテルのカードキーケース作業は、年間通しての仕事依頼が来て、11月の段階で昨年実績を上回りました。緊急な発注にも応えてきたので、信頼関係が出来、来年度はさらに上昇するものと期待しています。

食品作業の「ポテトチップス」は、薬院駅のときめきショップの閉店に伴い売れ行きが一気に落ちてきました。工賃向上対応で、西部ガスの販売等声をかけていただき取り組みを進めてきましたが、手間がかかるという課題も含め、今後の方向性の岐路を迎えています。

育成会便りや西部ガスの封入封緘作業・ストールの点検作業等可能な限り仕事に取り組みました。

着実に仕事が入るようになり、利用者の働く意識も向上しました。年間通して仕事が入り、納期との戦いになりました。利用者全員で仕事を確実にこなし、納品を守ることで信頼関係も強くなり、仕事量もさらに増えてきました。結果として、月平均工賃が10,000円を超えるまでに向上させることが出来ました。利用者の労働意欲も向上し、利用者個々の仕事量も増加してきました。笑顔も多くなりました。その半面、職員のオーバーワークも大きな課題となりました。職員の健康維持も考える必要が出てきました。

高齢化や様々な事情でB型の利用を変更せざるを得ない利用者が出てきたた

め、就労継続支援事業 B 型の利用者が減少しています。この課題をどのようにしていくかが次年度の課題である。

今年度も、利用者並びに保護者の高齢化に伴う対応が大きな課題となりました。引きこもりに近い状況をどのように解決するか、2 次障がいでの新たな支援をどのようにしていくか。保護者亡き後の対応も含め、支援センターとの連携が多くなりました。次年度も保護者の実情を踏まえ、利用者・保護者のニーズに応えるため、計画相談事業所や他機関、事業所等と連携を取りながらの支援が求められています。

具体的な事業内容は次の通りです。

## 1 利用者の状況

平成 30 年 3 月 31 日

項 目	内 容
定員（実利用）	36 名（31 名）
男女別利用者	男性 16 名          女性 15 名
平均年齢	47,8 歳（男性：47,2 歳      女性：48,5 歳）
支援区分	なし（5 名）   区分 1（1 名）   区分 2（6 名）   区分 3（7 名） 区分 4（11 名）   区分 5（0 名）   区分 6（1 名）

## 2 事業別の利用者数及び職員数

平成 30 年 3 月 31 日

事業名	定員	男性	女性	合計	支援員数
生活介護	6	1	4	5	1
就労継続支援 B 型	20	9	5	14	4
就労継続支援 A 型	10	6	6	12	3
合計	36	16	15	31	8

## 3 事業別活動状況

## (1) 生活介護

- ・上牟田が出来る時に生活介護も作ることになり、区分が重い方に生活介護になってもらった経過がある。保護者の思いと利用者の思いを受け止めると、まだ B 型で働きたいと言う希望を持っておられた。そこで、利用者の実態を把握しながら、B 型の仕事を体験させて今後の方向性を模索してきた。結果として、2 名の方が B 型へ移動した。残りの方も現在実習を継続しながら、次年度の切り替えで B 型への移動を進める方向である。また、B 型の利用者の中で、高齢化や障がい特性から生活介護へ移動希望も出てきた。本来の生活介護への過渡期となった。
- ・B 型から移動された精神の方への支援が難しかった。本人だけではなく、保護者支援が必要であった。主治医と連携しながら、服薬の定着による生活の安定を目指した。現在月・水・金の 3 日午前中の利用で進めている。
- ・カレンダー作りは意欲的に取り組み、素敵な作品が出来た。個々の特性を生かした支援が出来た。
- ・運動不足解消として、博多フレンドホームでの「健美操」に参加した。他にも、地域清掃や公園散策・教材の買い物・図書館利用等、体を動かすように活動を工夫した。
- ・B 型の作業も可能な限り一緒に取り組んだ。ラベル貼り・名刺の切り取り・封入封緘作業（印押しや紙折り封入等）・ホテルのカードキーケースのシール剥ぎ等、多くの活動に組み、働く意識の再確認が出来た。この取り組みを通して、B 型への意識も出てきた。2 名が B に移動。
- ・利用者の中には、障がいの特性や高齢化に伴い視力障害になり見えなくなった人もいる。今後の生活のためにどのように支援をしていくか、職員同士での研修も重ねてきた。外部との連携等更に進めていきたい。
- ・B 型の利用者の中に本当に生活介護が必要な方も出てきました。今後の対応が早急に求められています。

## (2) 就労継続支援 B 型

- ・これまで取り組んできた、業者からの委託を受けての樹脂版印刷（シルクスクリーン）と自主製品としてポテトチップス作り、アルミ缶回収作業や生産者から直接取り寄せた鹿児島茶の販売、ホテルのカードキーケース作り・ストールの埃取りと袋詰め・結婚式用ナフキンの埃取り・明太子の袋折り・封入封緘作業・ポンポン作り等、作業が一気に増えました。これまでと違って、仕事に切れ目がなくなり納品に追われる状況が続きました。それぞれの仕事を誠実にこなしてきたので、信頼関係を築けています。
- ・結婚式ナフキンの埃取りは、8 ケースの週 2 回納品で 16 ケースをこなし

ています。仕事は定着し、作業技術は向上しました。環境づくりを進めると指示しなくても自分から仕事に取り組めるようになりました。再点検の数も減少しました。日々の目標を設定し、達成評価を重ねてきた結果、作業量も増加して他の作業の取組にもつながりました。

- ・ホテルのカードキーケース作りは、年間通しての仕事依頼が来て、かなりの収入源となりました。仕事上の信頼もでき、急ぎの仕事も入るようになりました。苦情もなくなりました。利用者も仕事に慣れて、下準備が間にあわないほどに作業量がアップしました。次年度は更に仕事が進むと考えられます。
- ・樹脂版印刷（シルクスクリーン）については、担当職員の体調不良をきっかけに、仕事量を半分まで落としました。今後も作業の見直しを考えていく必要を感じています。
- ・食品作業のポテトチップスは、一昨年までは伸びを示してきましたが、ときめきショップの閉店に伴い一気に販売数が落ちてきました。いろんな所からの声かけで、対応してきましたが、今後どうしていくか岐路を迎えています。
- ・後半に箱詰めの仕事が飛び込んできました。仕事を受けたものの、工賃が低くて、工賃向上に向けて工賃の見直しをお願いしました。こちらの気持ちを受け止めていただき、上げることが出来ました。また、試食して利用者の労働にもつなげたいと言う話も受け入れてくれました。次年度の工賃獲得の柱になりそうな気配です。
- ・年間通して着実に仕事を重ねることが出来ました。結果として、工賃を更に向上させることが出来ました。平均工賃月額は、昨年の実績から 3,000 円以上積み上げることが出来、10,000 円近くになりました。

### （３）就労継続支援 A 型

- ・動物園の仕事が取れなくて、従業員が増加し、施設外就労 10 名と施設内就労 2 名の 12 名体制でスタートしました。支援員も最初から 3 名体制で、スムーズにスタートすることが出来ました。
- ・100 年記念公園の仕事がなくなりましたが、愛宕浜と百道浜の海浜公園の清掃と博多区の公園清掃の仕事を引き続き受けることが出来ました。清掃とともに、報告内容の正確さを求められますが、従業員と支援員の的確な仕事対応で信頼を得ることが出来ています。次年度も継続して仕事が続けられるような対応が必要になっています。
- ・施設内就労は明太子用袋折りに取り組みました。神経を使う細かな仕事ですが、月に 5000 枚が定着しました。仕事の細やかさ・むずかしさに反

比例して工賃が安いので、次年度からは辞退しました。次年度からは内勤がなくなりますので、丁度良い切れ目になりました。他にも簡易作業や公園清掃等にも関わらせながら、働く意識の向上をめざした支援を重ねてきました。

- ・施設外就労メンバーは毎月 2 回、上牟田で個別支援計画のモニタリングを行いました。その時、身だしなみや持ち物等の日常生活に関する課題を自己点検し、自らの気づきを支援してきました。さらに、個々の働く課題を明らかにしながら支援を継続しています。A 型の仕事が確実にあるという保証はないので、施設内で取り組んでいる作業を経験させながら、将来の事を意識した取組も重ねてきました。次年度も継続したいと考えています。

#### 4 余暇支援

- ・休日の充実のため、毎月 1 回～2 回の余暇支援を実施しました。サンサンプラザや博多フレンドからの講師派遣を受けて、運動不足解消と健康の維持のため軽運動やレクレーション、創作活動や調理を行いました。それ以外は、利用者の楽しめる内容を工夫しながら、これまでが施設内での活動が中心だったので、楽しみがこれからの生活に繋がるよう余暇支援のあり方を模索しました。現地集合・現地解散を入れながら、残っている力を再度活性化する対応を試みてきました。

#### 5 健康支援

- ・嘱託医による健康診断を年 2 回（6 月と 11 月）実施しております。検診時、日常気になっている利用者の状況を相談して、嘱託医の診断を家庭につなげて検診に結び付かせるように取り組んでいます。利用者の高齢化に伴い、健康支援の必要性が大きくなってきています。月に 1 度看護師による健康診断を実施しています。血圧や脈拍、体重や腹囲等の測定は、結果をその都度グラフで分かりやすくして各家庭に報告しています。保護者を交えた面談の時には健康状態で気になることを伝え、将来の健康を見据えた家庭生活を送ることをアドバイスしています。
- ・利用者の高齢化に伴い、医師の判断を聞きながら対応すべき内容が増加してきました。可能な限り職員も診察に同行して、主治医から話を聞けるように取り組んでいます。

#### 6 防災管理

- ・避難行動の定着を図り、防災に関する意識を高めてもらうため、1 年に 2 回、避難訓練を実施しました。1 回目は火災避難訓練で 2 回目は地震対応

の避難訓練を行いました。不審者対応の取組も具体的に実施していく必要を感じています。

今後も防災訓練の継続、定期的な建物の点検等を行い安全対策に努めます。

## 7 職員研修

- ・ 県や市、社会福祉協議会主催の研修の他に、民間団体や博多区内の研修に参加し、職員の資質向上とネットワークづくりに取り組みました。

日常の利用者支援に関して様々な場面で研修（OJT）を重ねました。「言葉支援」から「視覚支援」へと利用者目線での対応を工夫しました。作業に関しても「できない」ではなく、「できる」ためにはどうすればよいのか、具体的な支援を重ね利用者が、指示がなくても自ら先を見て行動するなどの変わりようで、各自が研修の必要性を感じてきた感じがしています。また、解りやすい環境づくりも行いました。

利用者理解に向けても、利用者の高齢化に伴う様々な変容や精神障がいに対する知識理解など、目の前の利用者を正しく理解し的確な対応が進むように研修を進めてきました。解らないことを率直に言い合える環境作りをさらに進めていきたいと思います。

## 8 地域交流

- ・ 上牟田 3 丁目の役員総会を施設で実施しました。上牟田の町内への理解も進み、花見を初め、校区行事への参加も進みました。
- ・ 地域清掃はなかなか時間が取れませんでした。可能な限り町内へ出ていきました。
- ・ 8 月の校区夏祭り・10 月の校区の運動会・11 月の校区防災訓練等に参加しました。
- ・ 校区の町内バスハイクにも参加しました。
- ・ 1 月には、校区や町内の役員、民生委員、苦情解決第三者委員の方々を招いて第 4 回地域懇談会を実施しました。話はかなり打ち解けて進んだ。

## 9 苦情対応

- ・ 苦情は出なかった。今後も丁寧な対応に心掛けていきたい。

## 10 その他

- ・ 1 2 月にバスハイクを行い、初めて A 型と合同で実施できた。宿泊を伴う計画を実施していきたい。